

## はしがき

埼玉大学地域オープンイノベーションセンターとしての紀要第2号をお届けいたします。本センターの前身である埼玉大学地域共同研究センターの紀要から数えますと、通算で第10号に相当することになります。当紀要には、主として平成21年度に実施された埼玉大学における産学官連携による共同研究、受託研究等の研究成果の概要について投稿されたものが掲載されています。

埼玉大学では、毎年250件程度の産学官連携による共同研究、受託研究が実施されていますので、これらの成果の全てを紀要形式で公表するには限界があります。したがって、さまざまな形式で研究成果が公表されることとなりますが、本紀要を通じて埼玉大学で実施されている研究の一端を知って頂ければと願っています。

大学は、「知の府」として、研究に裏付けられた教育を実施することにより、学術研究の発展とともに、次の世代の人材を育成する役割を担っています。このことから、大学における研究は、現在の社会が抱えている課題の解決ばかりではなく、未来の人類社会に貢献することを目指した研究を実施し、得られた知を継承する人材を育成します。その知の継承があって初めて、人類の発展がもたらされることとなります。その意味で、大学の存在は社会にとって不可欠な要素であり、同時に大学は具体的に社会に貢献していかなければなりません。

地域オープンイノベーションセンターが推進する産学官連携事業は、大学の存在意義、そして大学の社会貢献が、最も分かりやすい形で表れる例の一つです。産学官連携事業の中でも共同研究や受託研究は、大学における学術研究のための成果を、具体的に社会貢献に結びつけることができます。今後も、産学官連携による共同研究、受託研究を活性化し、その成果を更なる学術研究の発展に、そして人類社会の、地域社会の発展に結び付けていくことを目指します。そのために、本紀要が少しでも役立つことを願って止みません。

紀要第2号の発刊にあたり、ご協力頂いた関係各位に、深く感謝します。

平成22年5月

埼玉大学 教授 地域オープンイノベーションセンター長 川橋 正昭